

# 仙台藩の川内武家屋敷

東北大学川内北キャンパスの調査成果から

東北大学埋蔵文化財調査室

講義・実験・研究活動・サークル活動など、みなさんが大学生活を送っている川内北キャンパス。実は、遺跡の上にあることをご存じでしたか？キャンパス内で、時々、写真→のような様子を見たことはありませんか。大学の新しい施設を建設する時、水道・ガス管などを改修する時、地表面を掘る工事をする前には、必ず発掘調査をして、遺跡の状態を記録保存しています。



東北大学川内北キャンパスは、江戸時代、仙台城の二の丸の北側に作られた武家屋敷の跡地にあります。二の丸に近いので、仙台藩の重臣の屋敷も多かった場所です。江戸時代約 270 年間の長い歴史が詰まった場所なのです。

これまでに、川内北キャンパス内は 16 地点におよぶ調査が行われました。その研究の結果、武家屋敷の中のさまざまなことがわかってきました。教科書や歴史書には載っていない日常生活の歴史が見えてきます。ここでは、その一部をご紹介します。

この道路は、現在の川内郵便局前の道路より北にあります。  
現在の道路は、陸軍第二師団時代に作り替えられ、位置が異なります。



延宝九～天和三年（1681～83年）仙台北下絵図 吉岡一男編 2005『絵図・地図で見る仙台第二輯』に加筆

今の地図に、江戸時代の道路を復元すると…



すじかいばしとおり筋違橋通は現在の道路とほぼ同じ位置にあります。  
おおほりとおり大堀通は発掘調査で、およその位置を復元できるようになりました。かめおかとおり なかのさかとおり亀岡通・中ノ坂通の位置はまだわかっていません。川内北キャンパスに屋敷を持つ藩士は、これらの通りを通過して、二の丸に登城していました。



千貫沢に架かる千貫橋の石垣は、後世の補修・改修は見られるが、現在もその姿を留めています。



明治三十三年（1900年）最近實測仙臺市街全圖 吉岡一男編 2005『絵図・地図で見る仙台第二輯』に加筆

その後、川内キャンパスは、明治時代は陸軍第二師団が置かれ、戦後は米軍が「キャンプ・センダイ」として駐留しました。

東北大学埋蔵文化財調査室ウェブサイトはこちら→ <http://web.tohoku.ac.jp/maibun/>  
各調査地点の詳しい成果は、『東北大学埋蔵文化財調査年報』、『東北大学埋蔵文化財調査室調査報告』にまとめております。東北大学附属図書館で閲覧できます。  
東北大学機関リポジトリからダウンロードできます。 <http://ir.library.tohoku.ac.jp/re/>  
全国遺跡報告総覧 <http://sitereports.nabunken.go.jp/ja> からダウンロードもできます。

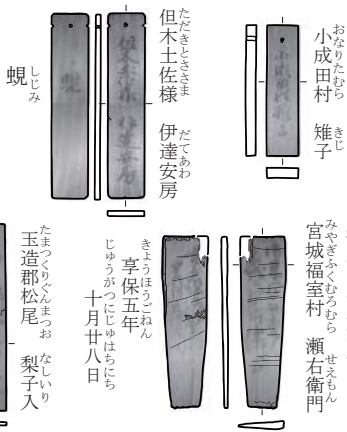


屋敷の中でも、裏手にあたる区域を調査しました。建物跡だけでなく、ゴミを捨てた穴、井戸、池の跡などが発見されています。ゴミ穴からは、木材・陶磁器と一緒に、捨てられた犬の骨が出土しています（写真上）。井戸の一つは、はしがが掛けられたままの状態で見つかった（写真下）。

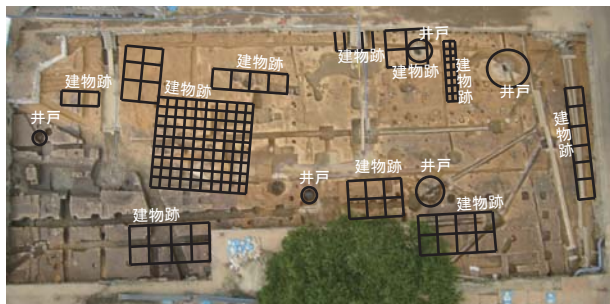


第7地点 現：マルチメディア教育研究棟

ゴミ穴からは、「享保」の年号が記載された荷札木簡がたくさん出土しました。年貢米に付けられた木簡や、蜆・雉・梨などの特産物の品物名が書いてあります。宮城福室村瀬右衛門は年貢を納めた農民の名前、但木土佐、伊達安房は仙台藩の重臣の名前で



江戸時代の初めから幕末までおよそ270年間にわたる建物跡・井戸・溝など、複数の武家屋敷の施設を発見しました。重複して発見されることから、270年間に何度も建て直しや配置替えをしていることがわかります。



第11地点 現：川内サブアリーナ（上が北）



石垣

この地点は、段丘崖があり、現在でも大きな高低差がみられます。調査では、江戸時代の石垣が発見されました。

第9地点 現：課外活動共用施設

第4地点 現：サークル部室棟  
調査から推定された屋敷の境



屋敷の境は、一時期、溝で分かれていたことがわかっています。サークル棟の大部分は、大松沢越中の屋敷（幕末頃）の中に当たります。

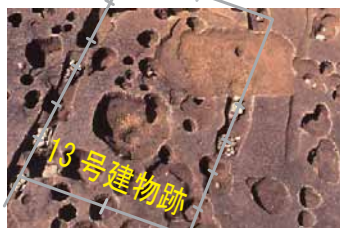
じちんいこう  
地鎮遺構



江戸時代初めに地鎮を行った痕跡です。素焼きの「かわらけ」を合わせ口にして、埋納しています。中には、えいらくつうほう 永楽通ぼうが11枚と稲粳が入っていました。上側のか

わらけには、「中北天」の墨書がみられました。

江戸時代約270年間を通して、1036本の柱の穴を発見。その中から、大きさ・柱間の距離・方向などを分析し、組み合う柱を探していきます。柱の数の多さは、建替えや改修を繰り返

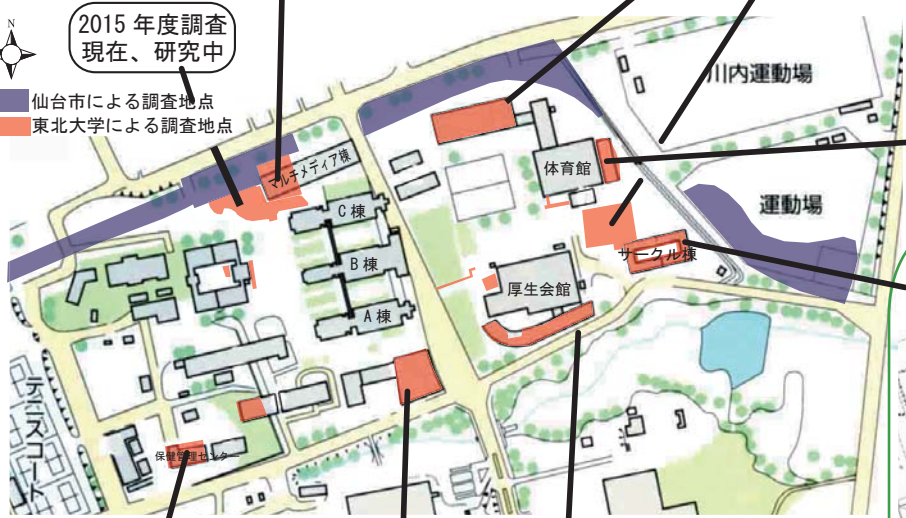


して、この場所が長い間、屋敷として使われたことを示しています。



2015年度調査  
現在、研究中

■ 仙台市による調査地点  
■ 東北大学による調査地点



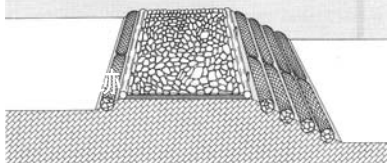
2014年度調査  
現在、研究中

第12地点（西から）  
現：保健管理センター



堰を設けて、堰に流れる流量を調節していました。

堰の復元図



江戸時代の堀跡の底から、堰が発見されました。石敷の東西には竹製の蛇籠が置かれています。

明治時代に埋め戻された土からは、陸軍第二師団時代の遺物が多数出土した。



薬瓶



軍服に付け階級などを示した徽章

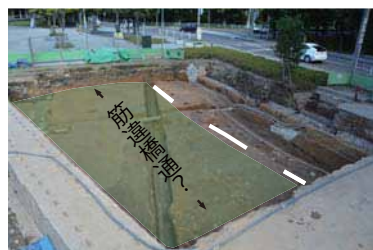


星文のある軍隊食器

第13地点  
現：川内厚生会館（上が北）



江戸時代の絵図に残る沢の痕跡を発見。筋違橋通の推定位置がわかりました。その北側には「北下馬廐」に関する柱の跡が見ついています。石で囲まれた四角形の部分は、「厠」の可能性が



第16地点（北西から）  
現：教育学生支援センター

筋違橋通（すじかいばしとおり）の推定位置がわかりました。